

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2191600036		
法人名	(株)アイランドジー・アイ		
事業所名	アイランドジー・アイ小田グループホーム		
所在地	岐阜県瑞浪市北小田町285		
自己評価作成日	令和3年12月29日	評価結果市町村受理日	令和4年3月16日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&g_yosyoOd=2191600036-00&SerVieCeOd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年2月8日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍にあり外出も出来ない中 グループホーム内でのレクリエーションに力を入れています。おやつ作り・昼食作りを企画しています。午前の体操・歩行も行い下肢筋力の維持に努め、運動を行っています。食事の準備・食器洗い・片付けなど積極的に行って下されます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「心ある介護」を理念に掲げ、利用者の意向を尊重したケアに心掛けている。コロナ禍で地域との交流や外出に制限あるなかで、事業所内での楽しみが増え気分転換できるように、行事内容やレクリエーションを工夫している。ミニ運動会やゲーム大会で体を動かす、書道や生け花で心を癒す、カラオケの曲を流し歌う、話題の新聞記事を読み聞かせ話し合う等をしている。洗濯物干しやたたみ、掃除、調理やおやつ作りの手伝い等で、無理なく利用者の能力が維持できるようにしている。家族との関係性にも配慮し毎月の写真や手紙以外に、行事でとった日頃の写真をアルバムにして贈呈している。重度化する利用者が多くなっているが、医師や訪問看護師と24時間連携できる体制を構築し、家族と共に最期を迎えることができ安心できる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域社会との交流が保たれることを目的として、積極的に地域へ出かけるよう目標設定しているが、コロナ禍により参加可能者は皆無であった。	職員が出退勤時の目につく事務所に理念を掲示し、毎日の朝礼で社訓と共に唱和している。毎月の会議に、利用者との接し方について職員で話し合っている。入職時に事業所の理念と方針を詳細に説明している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流としては、散歩中の挨拶・年中行事として地域の秋祭り、正月の初詣、夏祭りへの参加などありますが、コロナ禍により殆ど出来ていません。	住民との交流ができず、近くの神社、小学校や幼稚園を通るコースを散歩し、出会った人に挨拶している。認知症カフェへの参加もできず、認知症予防の行事に利用者の写真を展示してもらった。祭神輿は窓から眺め職員が祝儀を渡した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	グループホームへの関心を持って頂けるようにしていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	本年度は4回実施し、2月末に5回目を予定しています。	書面会議とし、事前にメンバーから意見をもらっている。事業所の日常生活の様子、職員体制、事故やヒヤリハット等を家族にも報告している。地域の情報をもらい、できる範囲の関わりに取り入れている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	状況に変化があれば、連絡するように心がけています。	書類提出時や電話で事業所の実情を伝え、連絡を密にしている。市主催の研修や会議はないが、メールや動画にて情報をもらっている。マスク、フェースシールド、抗原検査キットや二酸化炭素濃度計等の支給を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束回避の努力を常に心がけている。身体拘束・虐待に対する勉強会は法令に定める回数以上に実施するよう努めている。	身体拘束・虐待防止委員会を設置し、勉強会を兼ねて2ヶ月毎に開催している。動画の活用や事例を出し、身体拘束に対する理解を深めている。言葉遣いにも注意し拘束しないケアに努めているが、身体拘束をしないための指針や委員会の記録が確認できなかった。	身体拘束等の適正化のための指針を定め、開催した委員会での検討課題や実施内容を記録し、整備することが望まれる。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	存在しないよう常時意識している。採用時研修及び勉強会でも取り上げている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な利用者やご家族に成年後見制度の紹介が可能な程度の知識は持っているし、必要時には支援できる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	丁寧に行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱、苦情受付は窓口を設けている。意見を頂けば検討する姿勢がある。	自由な面会ができない為、利用者の様子を記した手紙に写真を添えて、毎月、家族に送付し、意見をもらいやすくしている。家族から「顔を見たい」との要望があり、時間を決めてガラス戸越しの面会にしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のリーダー会議、全体会議、勉強会がある。	職員とはいつでも意見が言える関係があり、業務中にリーダーに提案したり、メールで意見を出したりして、毎月の全体会議で話し合っている。必要物品を購入し、洗濯機を買い換えた。職員の希望に沿ったシフトにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	実施出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議、リーダー会議を通してトレーニングを行っている。また、外部の研修はその都度案内している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は行っていない。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時は、特に意識して情報収集に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	導入時には特に注意して必要な情報収集・交換に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所審査段階において注意深く検討をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の気持ちになり 施設ではなく生活を送るご自宅のように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の気持ちを知り、家族様と共に支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所への外出・友人の訪問を歓迎している。今年度はコロナ禍により制限しています。	電話の取り次ぎや携帯電話の充電の確認をしている。年賀状の宛名確認や送付先の名前を代筆する等で馴染みの人との交流を支援している。馴染みの床屋には、家族の協力を得て空きの確認や調整をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士良い関係が保てるように支援している。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	内容にもよるが、求められれば相談にのる姿勢はある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々努めている。	日常生活のなかで、利用者に寄り添い会話をしながら、思いや意向を聞いている。その人の言葉で思いが言えるように、せかせさずゆっくりと聞くようにしている。困難な人には、表情、目の動きや仕草等で推測している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	日々努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々努めている。	本人や家族には事前に希望を聞き、医師からの意見をもらい介護計画を作成している。6ヶ月毎にモニタリングし見直している。全体会議で話し合い必要時や状態変化時は随時見直し変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り対応していきたいと思っています。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	日々努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望を確認しながら支援している。訪問看護・訪問診療も取り入れている。	入居時に家族の希望で協力医に変更する人が多い。家族が同行しかかりつけ医を受診時は、日頃の状態や行動を口頭又は書面で伝え、受診後に報告を受けている。訪問診療の歯科医や接骨院の利用は中断している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	当然のことで日々努力し出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	事前には出来ていないが、入院した際には密に連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化・終末期の場合、ご家族様の希望も考慮しますが、誤解のない適切なタイミングで説明も実施している。	入居時に事業所の方針を説明している。状態に合わせて医師が家族に説明し、職員も一緒に話し合い確認をしている。訪問看護師とも連携し方針を共有しながら、24時間体制で支援している。看取り時は家族も一緒に見守り、看取りプランで支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に訓練をしている。地域との協力体制は出来ていないが、訓練への参加もある。	年2回、利用者も参加し避難訓練を実施している。寝たきりの人の移動方法が課題となり話し合った。水、米や缶詰等を備蓄している。住民に訓練を伝えているが協力はなく、職員が一人となる夜間体制での訓練ができていない。	様々な職員体制における避難方法を身につけ、非常時に落ち着いて行動できる訓練が望まれる。また、住民・地域との協力体制作りが望まれる。

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	重要事項として認識し対応している。定期的の勉強会も実施している。	言葉遣いや接遇の勉強会を随時実施し、排泄や入浴支援は特にプライバシーに配慮している。トイレ誘導時は小声で声かけし、ソワソワした様子時はさりげない言葉がけで場所を移動し確認する等をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り実施している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ある程度の日課を決めているが、その中でお一人お一人のペースを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	能力的に可能な方には、参加して頂いています。	野菜の下拵え、食器洗いやテーブル拭き等のできる事をやってもらっている。希望の献立や行事食を聞き、ピザや寿司等のテイクアウトを利用している。お好み焼き、たこ焼き、ぜんざいやからすみ等を手作りする回数を増やしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々努めている。		

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々努めている。当然のことです。	チェック表で確認しトイレ誘導したり、二人介助が必要な方もトイレ排泄に心掛けている。夜間もポータブルトイレ使用せず、トイレ誘導している。トイレの表示を大きくして自立できるようにし、リハビリパンツから布パンツに改善した人がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録にて、その方に合わせて排便コントロールを行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	頻度や時間は日課として決めさせてもらっていますが、内容は個々に沿ったものになっています。	入浴順や湯温は希望に合わせて、週3回入浴している。状態に合わせて、機械浴、シャワー浴、足浴や清拭等に対応している。柚湯や菖蒲湯にする、歌を歌う、ゆっくり話を聞く等で楽しみな入浴にしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の体調や状況に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日々努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々努めている。	小学校や幼稚園等へ散歩に出掛けている。花の水やり、洗濯物干しや取り込み、ベランダでお茶を飲む等で外気に触れる機会を作り、気分転換してもらっている。化石公園に桜、鯉のぼりや紅葉を見にドライブに出掛けている。墓参り希望の人には、職員が付き添っている。	

アイランドジー・アイ小田グループホーム

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	コロナ禍により外出(買い物)の機会もなく今は、対応していない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら求められる方はいないが、必要時には対応していく。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	努力している。	玄関に季節の花を生け観葉植物を置いている。リビングに四季に応じた壁画や利用者の作品を飾っている。雑誌や新聞を読んだり、広告を見たり自由に過ごせるようにしている。空気殺菌機や二酸化炭素濃度計を設置し、1時間毎に換気し日に4回消毒し、感染予防に注意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	限られたスペースの中で、思い思いの場所で過ごすことが出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力を得ながら出来る限り行っていると思います。	使い慣れた寝具、家具、ラジオ、時計等を持ち込んでいる。自分の思い出の写真や作品、家族写真や誕生祝いの色紙等を飾っている。家族から届いた花を飾る人もいる。居室で日記を書く、家族に電話する等で思い思いに過ごしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の自立度に合わせ、出来る事を出来る限り行って頂くように心がけています。		